

(7) ミナミクロダイのビブリオ病について

東京水産大学水生生物学系研究室

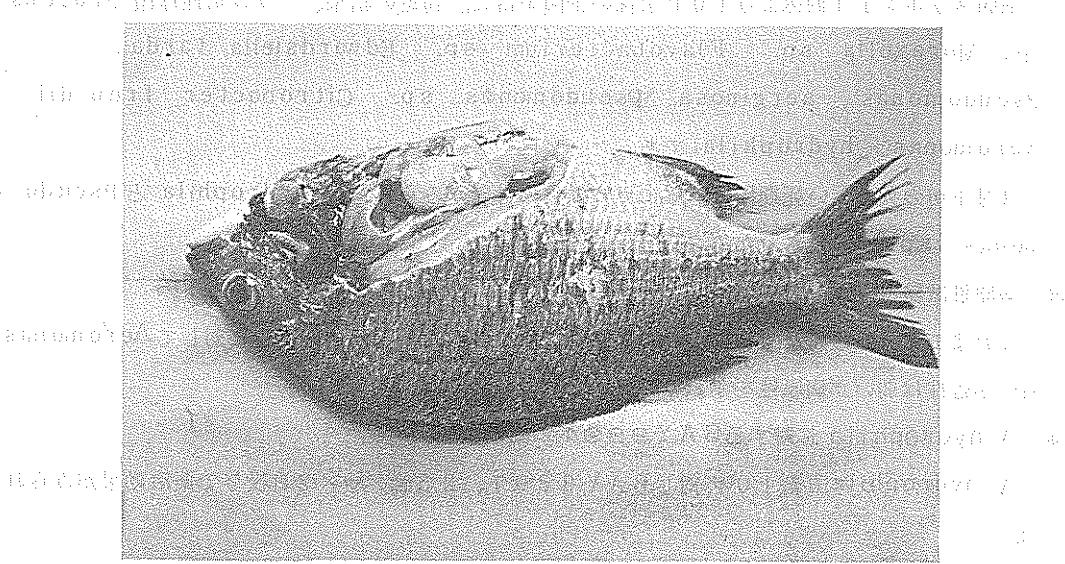
照屋忠敬、多和田真周

1976年3月中旬に採卵、ふ化した放流用のミナミクロダイが陸上水槽で飼育中、6月下旬から7月中旬までに3,000余尾へい死し、8月上旬ごろには1日平均500尾のへい死がみられた。それら罹病魚より *Vibrio* 属と思われる細菌が分離されたので報告する。

1 群の観察及び罹病魚の症状

罹病魚は遊泳力が弱く、群から離脱し池壁面により、体色の黒化がみられた。より重症魚は池底で横転し、死に致る。

症状は図版に示した。特異的な症状は、体側部や鰓に俗にいう「スレ」症状がみられ、内部器官では肝臓の褪色がみられた。



2 細菌検査

3% NaClが普通寒天培地に罹病魚の肝臓の切片をスタンプして25~24時間培養した。

分離菌は陰性で運動性のある桿菌、チトクロームオキシターゼ(+)、ブドウ糖を発酵的に利用するがガス非産生、O₁/129に対して感受性がある。TSI試験(A/A)、H₂S非産生、インドール(-)。

その他の性状試験は行なっていない。

3 診断及び対策

診断は水産庁編、魚病診断指針のマダイのビブリオ病と比較検討した。

上記の細菌検査の結果より、分離された細菌は Bergey's Manual (8 EDITION) の

の *Vibrio* 属とよく一致する。また、疾病の発生時期、及び群の行動、罹病の症状ともマダガスカルのビブリオ病とよく似ている。

よってミナミクロダイの疾病はビブリオ病と思われる。

対策として、スルファモノメトキシンNa の 25 P P M 3日間長時間漬浴と同じ薬を 15 g 水に溶し、ペレットに吸着させて 1 日 2 回 3 日間、経口投与した。

結果は、この薬を投与した魚は、他の魚よりも生存率が高かった。生存率は、投与しない魚では、約 50% であるが、投与した魚では、約 80% である。これは、投与した魚の生存率が、投与しない魚の生存率よりも約 1.6 倍高いことになる。

この結果から、ビブリオ病に対する治療薬として、スルファモノメトキシンNa を用いることが可能である。しかし、この薬は、他の魚にも効果があるため、他の魚に対する影響も考慮する必要がある。

この結果から、ビブリオ病に対する治療薬として、スルファモノメトキシンNa を用いることが可能である。しかし、この薬は、他の魚にも効果があるため、他の魚に対する影響も考慮する必要がある。